

分娩後1か月の若年産婦の マターナルアタッチメントに関連する要因の検討

沖縄県立看護大学 ○玉城 清子
" 賀数 いづみ

I 緒言

近年若年者の性行動の活発化により、二十歳未満の妊娠中絶率や出産率が上昇傾向にある。若年産婦は産科的リスクも高いが、心理的未熟さにより親役割の獲得がスムーズ行えない場合もあり、若年産婦は心理的にもハイリスクとされている。

母親の児に対する永続的な情緒的絆をマターナルアタッチメントといい、母子関係の形成に重要であるといわれている。本研究は若年産婦のマターナルアタッチメントに関連する要因を明らかにすることを目的としている。

II 方法

妊娠確定時 20 歳未満の若年妊産婦を追跡調査中であるが、今回は分娩後 1 か月時点でアンケートの回収ができた 38 人を分析対象とした。倫理的配慮として調査開始時に、調査への参加は自由意志で、不参加による不利益は生じず、調査の秘密は厳守されることを説明し、協力を得た。今回の調査内容は個人的背景、マターナルアタッチメント、夫婦関係の調和性、ソーシャルサポートであり、結婚相手としての希望度は妊娠末期に収集したデータを用いた。マターナルアタッチメントは The Maternal Attachment Inventory(MAI)を、夫婦関係の調和性は Marital-Dyadic Adjustment Scale(MDAD)を、ソーシャルサポートは 4 下位尺度(AVSI、ADSI、AVAT、ADAT)のある The Interview Scheduled for Social Interaction Questionnaire (ISSIQ)を用いた。得点は愛着の強さ、夫婦関係の調和性のよさ、ソーシャルサポートの高さを示す。結婚相手としての希望度はその人と結婚したいと思った程度である。なお、婚姻していないカップルもいるため夫とはせず、パートナーとした。調査期間は平成 14 年 12 月～16 年 3 月までである。

III 結果

対象者の平均年齢は 18.8 歳(SD 1.09 歳)、家族形態では核家族、夫婦で実家に同居、母子のみ実家に同居のうち、「夫婦で実家に同居」が 42.1%と多かった。パートナーの職業形態は常勤 60.5%、アルバイト 15.8%であった。また、家計の収入源はパートナーによるのが 52.1%で、実母 18.8%、義母 10.4%の順であった。家庭経済状況では「やや苦しい」44.7%で最も多く、「普通」「苦しい」の順であった。MAI 得点平均は 97.8 点 (SD 6.23)であった。

MAI 得点と個人的背景を一元配置分散分析やt検定で検討したところ、家族形態、婚姻状況、出産経験、家庭経済状況は関連がなく、関連があったのは結婚相手としての希望度で、結婚相手として「非常に希望」や「希望」は「やや希望」に比較し有意に得点が高かった(表1)。また、MAI 得点と MDAS 得点や ISSIQ の下位尺度の相関係数は表2の通りで、MAI 得点との間に有意な相関はなかった。

表1 MAI得点と属性との検定

項目	人数	MAI得点		t又はF値	p	多重比較等
		平均値	SD			
家族形態						
核家族	15	98.5	4.27			
夫婦で実家に同居	16	95.9	8.31	1.640	0.209	
母子のみ実家に同居	7	100.7	1.80			
婚姻状況						
既婚	32	97.3	6.59	-1.369	0.179	
未婚	6	101.0	1.79			
結婚相手としての希望度 ¹⁾						
非常に希望	10	99.4	7.04			
希望	10	98.8	3.19	2.529	0.025	
やや希望	5	88.8	8.87			
家庭経済状況						
普通	11	97.0	8.84			
やや苦しい	17	97.5	5.77	0.445	0.645	
苦しい	9	99.6	3.25			

1) 妊娠末期のデータより

表2 MAIと諸変数との相関

変数	MAIとの相関係数	
夫婦関係の調和性(MDAS)	0.099	n.s.
ソーシャルサポート		
AVSI	0.309	n.s.
ADSI	0.259	n.s.
AVAT	0.258	n.s.
ADAT	0.162	n.s.

AVSI(Availability of social integration): 社会的相互交渉の相手の存在
 ADSI(Adequacy of social integration): 社会的相互交渉の充足度
 AVAT(Availability of attachment): 情緒的に親密な関係を作ることのできる対象者の存在
 ADAT(Adequacy of attachment): 情緒的に親密な関係を作ることのできる対象者の充足度

IV 考察

家族形態のうち核家族の者は実家に同居している者より精神的に自立していると推測され、MAI 得点も高いと予想したが家族形態による差はなかった。既婚者は未婚者に比較し、パートナーと安定した関係にあると考えられMAI 得点も高いと予想したが婚姻状況と MAI 得点に関連はなかった。経済的困難者は生活が不安定であり愛着阻害要因になると予想したが、家庭経済状況は MAI 得点と関連していなかった。MAI 得点に関連があったのはパートナーとの結婚希望度であった。これらのことから、マターナルアタッチメントとは家族形態や家庭経済等の物理的環境ではなく、好きな人との結婚という心理的要因に関連すると推察される。しかし、夫婦関係の調和性とは有意な相関はなかった。夫婦関係の調和性は日常生活のパートナーとの調和性であるため児への愛着と関連がなかったのか、あるいは対象者は婚姻期間が短かったためなのか、今後さらにデータを集積し検討したい。ソーシャルサポートは育児不安や産後の抑うつとの関連があることから、児への愛着とも関連すると推察したが、今回の調査からは関連性が認められなかった。マターナルアタッチメントとソーシャルサポートに関し、さらにデータを集積し検討したい。

V 結論

若年産婦の分娩後1か月時点のマターナルアタッチメントに関連する要因はパートナーの結婚相手としての希望度であった。

文献 1) 野村幸子：母親の育児不安にソーシャルサポートの与える影響、

第28回小児看護、p157-160、1997.

2) 武田文、宮地文子、山口鶴子、野崎真彦：産後の抑うつとソーシャルサポート、日本公衆衛生雑誌、45(6)、p564-571、1998.